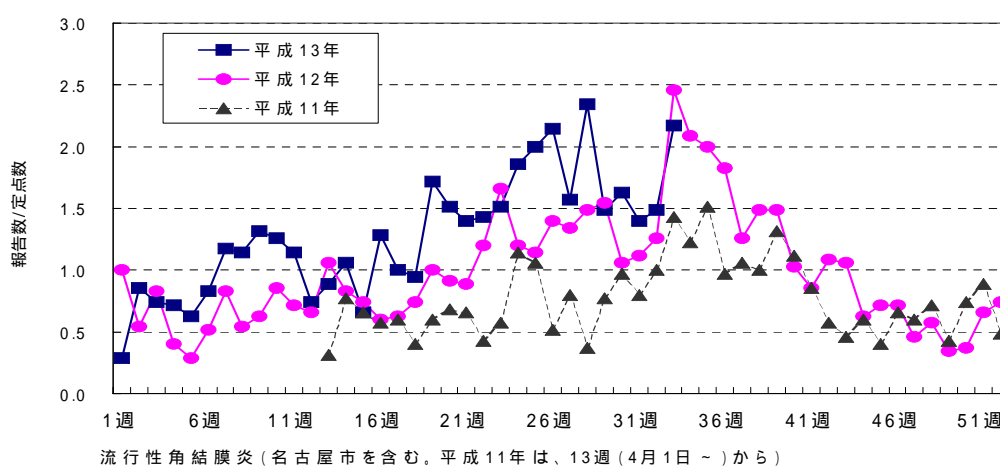


愛知県感染症情報

平成 13 年第 33 週（8 月第 3 週）

（コメント）

お盆休みの影響か報告数が全体的に少なくなっているなかで流行性角結膜炎は依然流行しています。流行性耳下腺炎は、報告数の多い状況が続いています。先生方からのコメントにも病原性大腸菌感染症の報告が目立ちますので注意してください。



（定点の先生方からのコメント）

- 尾張西部地区
 - ・ 成人男性マイコプラズマ肺炎
（一宮市 後藤小児科医院）
 - ・ 8 月 4 日 感染性胃腸炎の 2 歳 8 ヶ月女（一宮市在住）サルモネラ O9 群 同時感染者は周囲にありませんでした。
（木曾川町 さかたこどもクリニック）
 - ・ 比較的落ち着いています。ヘルパンギーナ少なくなってきました。
プール熱も少なくなってきました。
（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）
 - ・ 病原性大腸菌 EPEC 018 検出 32 歳女
（春日町 丹羽医院）
- 尾張東部地区
 - ・ 細菌性胃腸炎で EPEC（病原性大腸菌）01 6 ヶ月女。サルモネラ O4 と ETEC（毒素原性大腸菌）06 とカンピロバクター 9 歳女。マイコプラズマ肺炎 11 歳女。
（瀬戸市 津田こどもクリニック）

- ・ ヘルパンギーナは流行終息のようです。伝染性紅斑、流行性耳下腺炎はまだ小流行が続いています。その他目立った感染症はみられません。下痢を伴う症例が少し多いように思われました。
(瀬戸市 佐伯小児科医院)
- ・ 川崎病 1歳女
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
- ・ 5歳女の麻疹 1例あり。夏休みに徳島に旅行してきたとのこと。
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ 麻疹入院数名あり。
(小牧市 小牧市民病院)
- 西三河地区
 - ・ 伝染性紅斑 5歳女、13歳男。9歳女(同胞) 8月7日発症から感染、母親も感染。
(岡崎市 小児科延寿堂杉浦医院)
 - ・ サルモネラ O3 1歳男
(岡崎市 川島小児科水野医院)
 - ・ サルモネラ O4 10歳女
(碧南市 永井小児クリニック)
- 東三河地区
 - ・ 水痘 1名は名古屋より帰省中。
(豊橋市 富田小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 5名

- ・ 豊川保健所から報告の1歳男。7/31発病、7/31初診、8/3診定。
菌型は、O128 VT2(+)
- ・ 知多保健所から報告の26歳女。8/7発病、8/13初診、8/13診定。
菌型は、O157 VT2(+)
- ・ 西尾保健所から報告の16歳男。8/8発病、8/9初診、8/15診定。
菌型は、O157 VT1・2(+)
- ・ 豊橋市保健所から報告の6歳男。8/9発病、8/13初診、8/16診定。
菌型は、O157 VT1・2(+)
- ・ 春日井保健所から報告の7歳女。8/9発病、8/10初診、8/17診定。
菌型は、O157 VT1・2(+)

腸管出血性大腸菌保有者 2 名

- ・ 瀬戸保健所から報告の 7 歳男、4 歳男。いずれも 8/9 初診、8/13 診定。菌型は、0157 VT1・2(+)。

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

梅毒患者 1 名。

第 31 週(7 月 30 日～8 月 5 日)の 4 類感染症の全国状況

流行性耳下腺炎は、最近 10 年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が 13 週間続いており、都道府県別では石川県 6.83、福岡県 5.10、佐賀県 4.87 などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近 10 年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が 2000 年第 41 週から続いており、都道府県別では群馬県 1.38、長野県 1.07、三重県 1.04 などの報告がある。麻疹、突発性発疹などの定点当たり報告数は、過去 5 年間の同時期と比較してやや多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋)

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)

2001年6月29日号(76巻26号)

76巻1~26号の索引。疾患別、地域別総索引。

昆虫媒介性疾患(2)：前回に続く総説。昆虫対策の概略。

01年6月22-28日届出。コレラ：香港、フランス(輸入例)。

2001年7月6日号(76巻27号)

クリミア・コンゴ出血熱：旧ユゴスラビア・コソボ共和国の続報。6月26日時点でWHOのコソボ事務所は69例(死亡例)を報告、18例が確定診断。殆どの例が前年からの発生地区。ダニの活動が活発な夏から秋に発生が予測されている。

オンコセルカ症(注：流れの急な河川に発生するブヨが媒介するフィラリア症。幼虫は局所リンパ節から全身に広がり眼球に侵入して失明、河川沿いに分布するのでリバ-ブライントネスと呼ばれWHOの失明対策の重点疾患とされている。対策としてオンコセルカ常存地住民を対象として殺フィラリア剤の6ヵ月毎の投与の有効性が発揮されている)。本報は2000年11月、エクアドルで開催された第10回のWHO/米州WHO地区会議の概略。対象となっている米地区諸国はブラジル、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ベネズエラの6ヵ国。地区住民の投与率は86%(99年比34%増)。各国の状況：コロンビアの99%からベネズエラの41%までひらきがある)。

国際検疫病：ペスト、コレラ、黄熱の全世界の県・郡単位の発生地区の一覧表。

インフルエンザ(01年6月)：チリ。A(H3N2)とB型。アルゼンチン。A型。

6月29日-7月5日届出。コレラ：チャド、トゴ、ザンビア、香港、フランス。

平成13年8月23日

愛知県感染症情報

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

JRで隣に座った小学生。パパと一緒に出かけらしい。「宿題終わった？」と聞いたらニコッと笑って「済んだ、済んだ」。電車の外は台風一過の青空。至福の一日。ところでいつも貴重な情報を有難うございます。8月前半までのまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：相変わらず麻疹や百日咳などのワクチン予防可能疾患が各地区で発生しています。これにムンプスを加えると、予防接種接種率の低さによる感染症流行が目立ちます。多くはワクチン未接種児でワクチン歴がある例は修飾麻疹でした。ヘルパンギ-ナや手足口病、熱だけの感冒症候群が全市的に発生していますが、無菌性髄膜炎の多発傾向はないようです(名鉄病院宮津先生、国立病院伊藤先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生)。アデノウイルスによる咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、高熱で入院を要する扁桃炎なども多発中です(国立・伊藤先生、城北・渡辺先生、労災・山田先生、大同・水野先生)。マイコプラズマ感染症を含む肺炎・気管支炎(国立・伊藤先生、城北・渡辺先生、三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生、大同・水野先生)、伝染性膿痂疹・とびひ・ブ菌性火傷様皮膚症候群などが目立つようになりました(城北・渡辺先生、千種区今枝先生、労災・山田先生)。細菌性腸炎：病原性大腸菌(O157)・サルモネラ・カンピロバクター・エルシネア腸炎(三菱・岩間先生、中京・柴田先生、労災・山田先生)などの報告もいただいています。岩間先生からは冷房で体調を崩した年長児の報告もいただきました。筆者も自戒しなくては。

2. 尾張地区。犬山市武内先生からは手足口病と感染性胃腸炎散発中、江南市昭和病院西村先生からは水痘、手足口病と肺炎(クラミジア、マイコプラズマ)、アデノウイルス感染症の入院例目立つ、常滑市民病院上田先生からはヘルパンギ-ナ、ムンプス、手足口病が流行中でエンテロウイルスらしい夏カゼ、伝染性膿痂疹も多く、ムンプス髄膜炎や無菌性髄膜炎も目立ちウイルス性胃腸炎の脱水例もあるとのこと報告でした。

3. 三河地区：豊田地区では麻疹がまだ流行中で合併症による入院例が目立っています。無菌性髄膜炎による入院も多く伝染性紅斑やヘルパンギ-ナ、サルモネラ・カンピロ腸炎が増加中です。岡崎市民病院系洲先生からは大腸菌O157による6歳男児のHUSがあり、幸い透析は回避できた、知立市近藤先生からはアデノウイルスによる咽頭結膜熱、扁桃炎が多く、感冒性嘔吐下痢症やムンプスがやや多くカンピロ腸炎1例、マイコ肺炎が2例、刈谷市田和先生からは手足口病、ムンプス、水痘が散発中で急に高熱を出して3~5日続くものが目立つ、豊橋市からは咽頭結膜熱が目立ちムンプス、手足口病が散発中とのお手紙でした(市内長屋先生、宮澤先生)。有難うございました。